

〔資料〕

産前産後ケアセンターにおける母子支援の 実態と課題

田 中 深 雪¹⁾ 榊 原 まゆみ²⁾
小 林 由 美¹⁾ 小野寺 幸 子¹⁾

Conditions and issues of mother-child support at a perinatal care center

TANAKA Miyuki, SAKAKIBARA Mayumi, KOBAYASHI Yumi, ONODERA Sachiko

抄 録

【目的】

宿泊型産後ケアにおける利用の実態、利用者の満足度、利用の感想等についてデータを分析し、産前産後ケアセンターにおける母子支援の実態と課題を明らかにすることである。

【方法】

宿泊型産後ケアを受けた母親294名を対象として、ケアセンター入所時に聴取した基本情報シート、宿泊者ケアプラン用紙、ケアセンター利用後アンケート、居住する市町村からの利用申請書、利用報告書から情報を得て実施した。

【結果】

宿泊型産後ケアの利用者は294名であった。利用者は「産後ケア」「育児に関する相談」「赤ちゃんのケア」を受けていた。身体的ケアや具体的な育児方法へのアドバイスはもとより、スタッフの優しさや気遣い等の態度、話を聞いてもらえたことに対する満足度が高く、利用者は継続した施設利用を希望していた。

【考察】

利用者数が少ない傾向にあることから、ケアセンターの強みを明らかにし、それを広く発信すること、また保健師等の専門職からの紹介や、妊娠中から母親や家族等に広くケアセンターについて知ってもらい、利用者の増加に努めていく必要がある。

キーワード：滞在型産後ケア・産後母子支援・産前産後ケアセンター

1) 健康科学大学 看護学部 看護学科

2) 健康科学大学 産前産後ケアセンター

I. はじめに

A 県では、少子化対策を効果的に進めるためにプロジェクトチームを編成し幅広い検討を行っている。実際に欲しい子どもの数に達していない理由として、経済的要因、子育てに関する不安が挙げられていることから、①男性の意識啓発の充実、②出産直後の肉体的・精神的ケア、育児指導等の母親の産後支援の充実、③妊娠期から出産・子育て期までを通じた相談体制の整備拡充が求められていると結論付けている。このことから、①宿泊型産後育児支援を行う場、②産前産後を通じた育児支援の拠点、③いつでも連絡できる相談先、として B 大学産前産後ケアセンターが設置された。

B 大学産前産後ケアセンター（以降ケアセンターとする）は、平成28年1月に A 県産後ケア事業を委託運営する民立民営の施設として開設された。ケアセンターの事業は、①委託事業（滞在型産後ケア）、②自主事業（産後日帰りケア、健康教室、母乳ケア）である。ケアセンターのコンセプトは「不安解消」「安らぎ」「癒し」「休息」であり、助産師を中心としたケアを24時間、365日受けることができる。

ケアセンターの開設から1年以上が経過しているが、ケアセンターの利用実態や利用者の満足度は明らかになっていないため、評価が必要だと考えた。本研究の目的は、滞在型産後ケアにおける利用の実態、利用者の満足度、利用の感想等についてのデータを分析し、ケアセンターにおける母子支援の実態と課題を明らかにすることである。

II. 方法

1. 調査対象およびデータの収集方法

平成28年1月（開所時）から平成29年8月までに、B 大学産前産後ケアセンターで滞在型宿泊ケアを受けた母親294名を対象に、ケアセンター入所時に聴取した基本情報シート、宿泊者ケアプラン用紙、ケアセンター利用後アンケート、居住する市町村からの利用申請書、利用報告書から情報を得た。

2. 調査票の内容

居住地（県内・県外）、年齢、家族構成、分娩回数（初産・経産）、分娩方法（正常・帝王切開・その他）、子どもの月齢、利用の経緯、手続き上の困難度、利用の理由、利用日数、受けたケアの内容、利用の満足度、施設設備の満足度、食事の満足度、スタッフの関わりの感想、今後のケアセンター利用の希望の有無

3. 分析方法

分析については記述統計を、記述については内容分析を実施した。

4. 倫理的配慮

データはケアセンター内で収集し、データは記号化し個人が特定できないように処理

した。なお、本研究は健康科学大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号29）。

Ⅲ. 結 果

平成28年1月から平成29年8月までの利用者は294名であった（延べ人数）。

1. 利用者について

1) 居住地

居住地は全て県内であった（表1）。

	n	%
県 内	294	100.0
県 外	0	0.0

2) 年齢

利用者の年齢の平均は34.0歳であった。内訳は「20～24歳」が7名（2.4%）、「25～29歳」が49名（16.7%）、「30～34歳」が104名（35.4%）、「35～39歳」が88名（29.9%）、「40歳以上」が46名（15.6%）であった（表2）。

	n	%
20～24歳	7	2.4
25～29歳	49	16.7
30～34歳	104	35.4
35～39歳	88	29.9
40歳以上	46	15.6

3) 家族構成

「核家族」が155名（52.7%）、「2世帯以上」が90名（30.6%）、「その他」が2名（0.7%）、「不明」が47名（16.0%）であった（表3）。

	n	%
核家族	155	52.7
2世帯以上	90	30.6
その他	2	0.7
不 明	47	16.0

4) 分娩回数の別

初産婦が231名 (78.6%)、経産婦が63名 (21.4%) であった (表4)。

表 4 N=294

	n	%
初産婦	231	78.6
経産婦	63	21.4

5) 分娩様式について

「正常分娩」が168名 (57.1%)、「帝王切開」が70名 (23.8%)、「その他」が21名 (7.1%)、「不明」が35名 (11.9%) であった (表5)。

表 5 N=294

	n	%
正常分娩	168	57.1
帝王切開	70	23.8
その他	21	7.1
不明	35	11.9

6) ケアセンター利用時の子どもの月齢について

「0ヶ月」が47名 (16.0%)、「1ヶ月」が68名 (23.1%)、「2ヶ月」が63名 (21.4%)、「3ヶ月」が64名 (21.8%)、「4ヶ月」が41名 (13.9%)、「その他」が11名 (3.7%) であった (表6)。

表 6 N=294

	n	%
0ヶ月	47	16.0
1ヶ月	68	23.1
2ヶ月	63	21.4
3ヶ月	64	21.8
4ヶ月	41	13.9
その他	11	3.7

2. ケアセンター利用の実際

1) 利用経緯について (複数回答)

「保健師からの紹介」が133名 (28.1%)、「新聞・ニュース」が72名 (15.2%)、「家族からの勧め」が60名 (12.7%)、「友人や知人からの紹介」が55名 (11.6%)、「出産施設からの紹介」が40名 (8.4%)、「ホームページ」が31名 (6.5%)、「子育て支援者からの紹介」

が19名（4.0%）、「電話相談で紹介」が15名（3.2%）、「その他」が49名（10.3%）であった（表7）。

表7

N=474

	n	%
保健師からの紹介	133	28.1
新聞・ニュース	72	15.2
家族からの勧め	60	12.7
友人・知人からの紹介	55	11.6
出産施設からの紹介	40	8.4
ホームページ	31	6.5
子育て支援者からの紹介	19	4.0
電話相談で紹介	15	3.2
その他	49	10.3

2) 利用申請手続きについて

「難しくない」と回答した者が251名（85.4%）、「難しい」と回答した者が33名（11.2%）、「無回答」が10名（3.4%）であった（表8）。

表8

N=294

	n	%
難しくない	251	85.4
難しい	33	11.2
無回答	10	3.4

3) 利用日数について

「1泊2日」が39名（13.3%）、「2泊3日」が91名（40.0%）、「3泊4日」が155名（52.7%）、「4泊以上」が8名（2.7%）、「不明」が1名（0.3%）であった。

分娩回数別では、初産婦では「3泊4日」が131名（56.7%）、「2泊3日」が65名（28.1%）、「1泊2日」が27名（11.7%）、「4泊以上」が7名（3.0%）であった。経産婦では、「2泊3日」が26名（41.3%）、「3泊4日」が24名（38.1%）、「1泊2日」が12名（19.0%）、「4泊以上」が1名（1.6%）であった（表9）。

表 9

	全体 (N=294)		初産婦 (n=231)		経産婦 (n=63)	
	n	%	n	%	n	%
3泊4日	155	52.7	131	56.7	24	38.1
2泊3日	91	40.0	65	28.1	26	41.3
1泊2日	39	13.3	27	11.7	12	19.0
4泊以上	8	2.7	7	3.0	1	1.6
不明	1	0.3	1	0.4	0	0.0

4) ケアセンター利用の理由について (複数回答)

「育児に不安がある」と回答した者が201名 (40.1%)、「手伝いがいない」と回答した者が97名 (19.7%)、「体調に不安がある」と回答した者が134名 (27.2%)であった。

分娩回数別にみると、初産婦では「育児に不安がある」が170名 (43.3%)、「体調に不安がある」が101名 (25.7%)、「手伝いがいない」が76名 (19.3%)、「その他」が46名 (11.7%)であった。経産婦では「体調に不安がある」が33名 (33.0%)、「育児に不安がある」が31名 (31.0%)、「手伝いがいない」が21名 (21.0%)、「その他」が15名 (15.0%)であった (表10)。

表10

	全体 (N=493)		初産婦 (n=393)		経産婦 (n=100)	
	n	%	n	%	n	%
育児に不安がある	201	40.1	170	43.3	31	31.0
手伝いがいない	97	19.7	76	19.3	21	21.0
体調に不安がある	134	27.2	101	25.7	33	33.0
その他	61	12.4	46	11.7	15	15.0

5) ケアセンターで受けたケアについて (複数回答)

「産後ケア」が252名 (33.5%)、「育児に関する相談」が255名 (33.9%)、「赤ちゃんのケア」が245名 (32.6%)であった (表11)。

表11

	N=752	
	n	%
産後ケア	252	33.5
育児に関する相談	255	33.9
赤ちゃんのケア	245	32.6

4. ケアセンター利用後の感想

1) ケアセンター利用の満足度について

「満足」が249名 (84.7%)、「やや満足」が9名 (1.0%)、「普通」が2名 (0.7%)、「不満」が0名 (0.0%)、「不明」が34名 (11.6%) であった (表12)。

表12

N=294

	n	%
満 足	249	84.7
やや満足	9	1.0
普 通	2	0.7
不 満	0	0.0
不 明	34	11.6

2) 施設設備について (複数回答)

「良かった」と回答した者が1005名 (99.9%)、「悪かった」と回答した者が1名 (0.1%) であった。良かった点の内訳は、「建物全体」が217名 (21.6%)、「部屋」が209名 (20.8%)、「浴室」が208名 (20.7%)、「食堂」が138名 (13.7%)、「ケアルーム」が65名 (6.5%)、「玄関」が47名 (4.7%)、「多目的ホール」が40名 (4.0%)、「シャワー」が39名 (3.9%)、「待合」が25名 (2.5%)、「相談室」が17名 (1.7%) であった。悪かった点の内訳は、「建物全体」が1名 (100%) であった (表13)。

表13

N=1006

	良かった (n=1005)		悪かった (n=1)	
	n	%	n	%
建物全体	217	21.6	1	100.0
部 屋	209	20.8	0	0.0
浴 室	208	20.7	0	0.0
食 堂	138	13.7	0	0.0
ケアルーム	65	6.5	0	0.0
玄 関	47	4.7	0	0.0
多目的ホール	40	4.0	0	0.0
シャワー	39	3.9	0	0.0
待 合	25	2.5	0	0.0
相談室	17	1.7	0	0.0

3) 食事について

「大変満足」が197名 (67.0%)、「満足」が71名 (24.1%)、「普通」が13名 (4.4%)、「不満」が3名 (1.0%) であった (表14)。

表14

N=294

	n	%
大変満足	197	67.0
満足	71	24.1
普通	13	4.4
不満	3	1.0
不明	10	3.4

4) スタッフについて (複数回答)

スタッフについて「良かった」と回答した者が975名 (99.7%)、「悪かった」と回答した者が3名 (0.3%)であった。良かった点の内訳は、「挨拶や声かけ」が247名 (25.3%)、「言葉使い」が218名 (22.4%)、「身だしなみ」が209名 (21.4%)、「授乳」が195名 (20.0%)、その他が106名 (5.0%)であった。悪かった点の内訳は、「その他」が3名 (100%)であった (表15)。

表15

N=978

	良かった (n=975)		悪かった (n=3)	
	n	%	n	%
挨拶や声かけ	247	25.3	0	0.0
言葉使い	218	22.4	0	0.0
身だしなみ	209	21.4	0	0.0
授乳	195	20.0	0	0.0
その他	106	5.0	3	100.0

スタッフに関する自由記述を分析した結果、10カテゴリー、28サブカテゴリーが挙げられた。その内容は、「身体的ケア」「具体的な育児の方法・アドバイスが聞けた」「相談・アドバイスがもらえた」「話を聞いてもらえた」「気分転換できた」「リラックスできた」「スタッフの態度が良かった」「スタッフの態度が悪かった」「その他」であった (表16)。

5) 宿泊ケア以外の利用への希望 (複数回答)

「利用したい」が223名 (49.1%)、「人に勧める」が145名 (31.9%)、「友人を誘って利用する」が83名 (18.3%)、「利用の予定なし」が3名 (0.7%)であった (表17)。

表16 スタッフについての自由記述

カテゴリー	サブカテゴリー
身体的なケアを受けることができた	マッサージ
	ベビーマッサージ
	赤ちゃんの預かり
具体的な育児方法の相談・アドバイスが聞けた	育児方法を聞けた
	アドバイスしてもらえた
相談・アドバイスがもらえた	親切で相談しやすい
	親身になってくれた
	相談できた
	安心して聞くことができた
	安心した
	親身に話を聞いてもらえた
話を聞いてもらえた	話を聞いてもらえた
気分転換できた	気分転換
リラックスできた	癒された
スタッフの態度が良かった	声をかけてもらえた
	笑顔で接する
	優しかった
	嬉しかった
	親身になってくれた
	親切
	安心できた
その他	
スタッフの態度が悪かった	態度
その他（良かった）	すべて
	自信が持てた
	励みになった
その他（悪かった）	食事に関すること
	環境に関すること

表17

	n	%
利用したい	223	49.1
人に勧める	145	31.9
友人を誘って利用する	83	18.3
利用の予定なし	3	0.7

N=454

IV. 考 察

1. ケアセンター利用の実態について

1) 利用者について

利用者全ての居住地は県内であった。県内居住者は居住する市町村から利用料金の助成を受けられることから、県内居住者の方が利用しやすい環境にあったものと考えられる。

利用者の平均年齢は34.0歳であった。平成27年の人口動態統計月報年計（概数）の概況¹⁾によると、母親の出産年齢は第1子、第2子、第3子以降のいずれとも30～34歳が最も多く、利用者の年齢に特質したものはない。

本研究の対象者は、家族構成は核家族、分娩回数の別は初産婦、分娩様式は正常分娩が多かった。野口ら²⁾によると、褥婦が産後1ヶ月間家族のケアを受けていても、身体的・精神的に辛いと答えたものが半数以上おり、家族の他に支援者が必要であるとしている。ゆったりとした時間を過ごすことのできる環境に身を置き、助産師等の専門的知識を持ったスタッフからの実践的なアドバイスや相談、話をする事ができる環境は産後の母親に必要なものと考えられる。

2) 利用背景

ケアセンターの利用経緯は保健師からの紹介が最も多いことから、ケアを受ける必要性のある母親が利用できるように市町村と連携し、対応していく必要がある。また、母親やその家族に対して、妊娠期から「産後ケア」や「宿泊型産後ケア」についての情報提供をし、育児支援の一つの選択肢として提示しておくことで、必要な時に利用できるようにしていく。

利用の理由については、育児に対する不安が最も多かった。島田³⁾は、母親が母親役割を獲得するには3～4ヶ月を要するとしている。ケアセンター利用時の子どもの月齢は、1ヶ月が最も多く、次いで3ヶ月、2ヶ月となっている。産後1ヶ月までは里帰りや、自宅で家族の支援を受けられるが、それ以降は自宅に戻り、母子で過ごすことが多くなる。このため、産後4ヶ月程度までの期間は、専門家のケアを継続的に受けることのできる環境を作る必要があると考える。

3) ケアセンター利用の満足度

ケアセンター利用の満足度は高かった。施設設備については、建物全体、部屋、浴室の順に高く、生活環境の充実が満足に繋がったものと考ええる。また、身体的ケア（マッサージや休息の支援）や具体的な育児方法へのアドバイスはもとより、スタッフの優しさや気遣い等の態度、話を聞いてもらえたことに対する満足度が高かった。利用の満足度が高いことは、今後も継続してケアセンター利用を希望する要因の一つになっているものと考えられる。ケアセンターは母親同士や助産師等の専門職と繋がることのできる場所である。母親の孤立を防ぐ意味でも、継続した利用ができるように母親や家族のニーズを考慮した事業を計画し、実施していく必要がある。

2. 産前産後ケアセンターにおける母子支援の実態と課題

「産後ケア」「育児に関する相談」「赤ちゃんのケア」を受けていた。

ケアセンターの利用者数は年間650人を見込んでいたが、開所初年でもあったことから利用者数が少ない傾向にある。ケアセンター利用者の満足度は高いことから、今後はより利用者数を増やし、ケアセンターを円滑に運営していく必要がある。ケアセンターの強みを明らかにし、それを発信していくこと、また保健師等の専門職からの紹介、また母親や家族等に広くケアセンターについて知ってもらい、利用者の増加に努めていく必要がある。

3. 本研究の限界と今後の展望

本研究では、ケアセンターの利用実態と利用の満足度を明らかにすることができた。しかし、宿泊型産後ケアを受けた母親の具体的な変化（身体的・心理社会的側面）や産後ケアの効果を明らかにすることができなかつたため、今後明らかにしていく必要がある。

V. 結 論

宿泊型産後ケアの利用実態は、「産後ケア」「育児に関する相談」「赤ちゃんのケア」であった。利用者数が少ない傾向にあることから、ケアセンターの強みを明らかにし、それを広く発信すること、また保健師等の専門職からの紹介や妊娠中から母親や家族等に広くケアセンターについて知ってもらい、利用者の増加に努めていく必要がある。

〈引用文献〉

- 1) 厚生労働省：平成27年人口動態統計月報年計（概数）の概況。www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/dl/gaikyou27.pdf（2017年10月30日）
- 2) 野口真由，鈴記洋子，森脇智秋：産後ケア施設の認知度と産後ケアのニーズ，母性衛生，Vol. 57，No. 3，p185，2016

- 3) 高田真理恵：より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究, 平成27年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」総括研究報告書, p12, 2016

Abstract

Objective : The present study aimed to elucidate the current conditions of and issues regarding support for mothers and children at a perinatal care center.

Methods : The study focused on 294 mothers who received the services at the center. Data were obtained through basic information sheets that were filled following admission to the care center, care plan worksheets, questionnaire surveys conducted after using the care center service, application sheets sent by the municipal office where the mother resided, and information from utilization report forms.

Results : It was found that 294 users received overnight stay perinatal care services. They received postnatal care, counseling related to child rearing, and neonatal care. It was revealed that the users were satisfied with received advice on physical care and specific instructions on child-rearing methods. Moreover, they were highly satisfied by the staff's caring and supportive attitude. They appreciated that there was someone they could talk to, and they expressed their desire to continue using the service.

Conclusions : Since the number of users is not many, it is urgent to clarify and publicize the advantages of using the care center. In addition further efforts include asking health care professionals to introduce the center and promoting a better understanding of the center among pregnant women, mothers, and their families are necessary.

Key words : overnight stay postnatal care service
postnatal care service
perinatal care center